

運営委員会だより

運営委員 須田章七郎

◇6月中旬、突然左足のすねの側面に激しい痛みを生じ、「脊柱管狭窄症」の手術を受けました。2ヶ月半も入院となり、運営委員会もしばらく欠席しました。入院がこれほど長くなってしまったのには訳があります。激痛が生じた時に診てもらった医師は一切触診せず、「レントゲンを撮ってきて下さい」「明日はMRIを撮りましょう」と言うのみで、画像から患者を診るだけでした。そうこうしているうちに3日目には左足首から先が動かなくなり、指先がカーペットにつっかかり躓きそうになりました。

◇入院となり、痛みを緩和する投薬と腰にカテーテルを刺し、管から麻酔を注入する治療（硬膜外注射）が始まりました。毎日30CCほど麻酔を注入することに不安もあり、看護師に聞くと「医師の判断があるから」と答えるのみです。その治療が2週間たった時、医師が「明日〇〇病院の先生が来るので診察を受けますか」と聞くのをお願いしました。翌日、その医師の診察があり、第一声が「装具を付けなければ歩けないこともないから」というので、同席した妻や息子はビックリ仰天です。もちろん私もです。そして、「手術しなければならぬが、足が動くようになる保証は医師としては言えない」と続けました。痛みが解消すれ

ば足は治ると思っていましたが、重症でした。◇手術するなら脊髄の専門病院でと考え、セカンドオピニオンを申し出て、今までのデータを持って行きました。そこでの医師は体を診察し、足の麻痺は「馬尾神経障害」によるもので治るかどうかは難しいという判断でした。いずれにしても激痛の除去は手術しかなく、即日入院となりました。◇脊柱管狭窄症の手術は無事済み、普通なら3週間ほどで退院なのですが、足に麻痺が生じているためにリハビリが続き、長い入院生活となってしまいました。この間、何と伝染したかのように倉林運営委員長と近現代史ゼミ講師の内藤さんが座骨神経痛で難儀しているという話を聞きました。◇運営委員会の論議はいつも活発ですが、「寄る年波には勝てず」でしょうか、いささか故障続きです。しかし、「育ちと学び」は全国のどの情報誌にも劣らない自負があります。今後も充実した内容で発行しますので乞うご期待。◇「会員のひろば」ではニュースの内容やフォーラムの活動に対する意見、感想はもちろん、絵や写真などの作品も掲載します。同封のハガキのほかに、手紙やメールでも結構です。お気軽にお寄せください。

今後の主な予定

11月17日(金)	14時30分～	原発と自然エネルギー研究部会
11月18日(土)	13時30分～	ゆるりと3色パステル画寺子屋(フォーラム)
11月24日(金)	13時～	スタジオ楽書会(フォーラム)
11月25日(土)	10時30分～	教育ネットワークぐんま事務局会議(全群教書記局室)
	14時～17時	近現代史ゼミ(群馬県生涯学習センター)
12月8日(金)	13時～	スタジオ楽書会(フォーラム)
	18時～	わいわいフォーラム
12月17日(日)	10時～	子どもの野外活動部会(パステル画体験)
12月22日(金)	13時～	スタジオ楽書会(フォーラム)

育ちと学び No. 34

ぐんま教育文化フォーラム

2017年11月10日 発行

〒371-0026 前橋市大手町3-1-10 群馬県教育会館3F

[TEL・FAX] 027-235-8876 [IP電話] 050-3419-3803

[E-mail] g-kyoken@nifty.com

[URL] <http://gkb-forum.sakura.ne.jp>

